
経済 TOPICS

No. 235

(2024 年 9 月 13 日)

景気ウォッチング（要旨）

日本 … 生産、設備投資、輸出が横這い圏内で推移するなか、個人消費の底堅い動きが続いていることから、全体としては緩やかな回復の動きが続いている。消費者物価（除く生鮮食品）は、エネルギー価格の上昇により緩やかに上昇している。この間、海外での軍事紛争の長期化、中国経済の停滞、米国大統領選など、先行き不透明感の強い状態が続いている。

米国 … 生産は横這い圏内で推移しているものの、個人消費や設備投資が底堅く推移していることから、全体としては緩やかな回復が続いている。この間、中古住宅販売は低調が続く、労働需給は緩和傾向にある。消費者物価は、前年比上昇幅が縮小している。

（参考）物価動向

＜日本＞ 生鮮食品を除く食料価格は鎮静化しているものの、サービス価格の上昇圧力と価格転嫁の動きが続くなか、エネルギー価格が上昇したことから、生鮮食品を除く総合では、緩やかに上昇している。

＜米国＞ サービス価格の上昇圧力は続いているものの、食料及びエネルギーを除く商品価格が下落し続けていることから、全体としては前年比上昇幅が縮小している。



京都フィナンシャルグループ

京都総研コンサルティング
